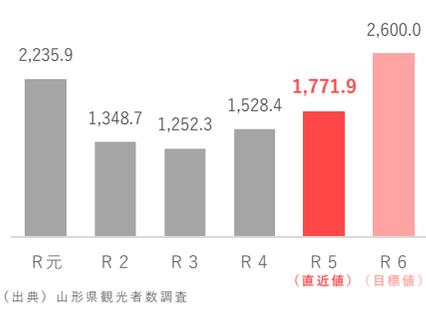


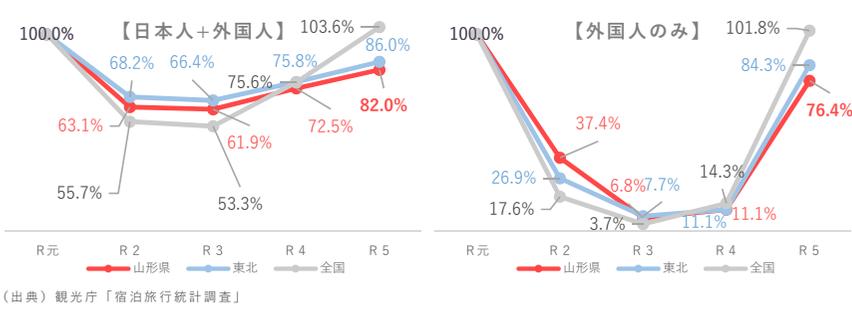
## 本県観光産業を巡る現状

- 数値目標（観光消費額）は、**新型コロナウイルスの影響により策定時を下回っている。**
- 観光需要の回復等により、外国人受入数をはじめ多くの指標がコロナ禍から回復している一方で、**全国と比較すると回復速度は鈍い状況にある。**

< 本県観光消費額（暦年）の推移（億円） >



< 延べ宿泊者数（暦年）における令和元年比の推移（%） >



## 本県観光における課題

- ▶ 国内外の旅行者の多様なニーズ・嗜好に応えるため、データ分析に基づき、DMOなど地域が一体となって地域資源の価値に光を当て、深掘りし、魅力ある観光コンテンツとして開発することが必要。
- ▶ 国内需要が縮小する中においては、高付加価値旅行者層をはじめとした旺盛なインバウンド需要を本県に広く取り込む取組みが不可欠。
- ▶ 観光産業における深刻な人手不足に対応するため、観光DXの推進等を通じた経営効率化や、将来の本県観光産業の重要な担い手となる人材の育成が急務。
- ▶ 人口減少・少子高齢化が避けられない中、交流人口・関係人口の拡大による地域活性化を実現するためには、**すそ野の広い観光産業が地域経済の牽引役としての取組みを推し進めることが必要。**

## 計画の概要（計画期間：令和7年度（2025年度）から令和11年度（2029年度）までの5年間）

### 【観光立県としての山形県のあるべき姿（基本目標）】

本県観光産業を巡る現状や課題を踏まえつつ、観光立県としての山形県のあるべき姿を基本目標として設定。

**観光消費額の拡大・多様な交流・地域資源の継承を通じた地域活性化による「持続可能な観光地域の確立」を目指す**

### 【施策展開の方向性】

- おもてなし山形県観光条例における基本的施策を踏まえつつ、観光消費額の単価上昇を伴った拡大と、観光産業の持続的発展を実現するため、**本県が世界に誇る観光資源を最大限に活用しながら、3つの「施策の柱」に基づいた観光振興施策を展開する。**
- さらに、昨今の観光産業を巡る状況に対応するため、特に優先度が高く注力すべき3分野を「重点プロジェクト」として設定し、施策を強力に推進する。
- 数値目標については、観光消費額における「質的な変化」を確認するため、新たに「観光消費額単価」を設定する。

### 【地域活性化・持続可能な観光地域づくり戦略】 （3つの「A」による施策展開）



### 重点プロジェクト

- I. イン・アウトバウンドも含めた交流人口・関係人口の拡大と高付加価値化
- II. DXの推進や観光産業を支える人材の育成
- III. すべての人々を受け入れるアクセシブルツーリズムの推進

### 数値目標

- 観光消費額（直近値（R5））：約1,772億円 ※この他、参考管理指標も別途設定
- 【新規】観光消費額単価（県外客（宿泊））（直近値（R5））：31,799円/人回
- 【新規】観光消費額単価（訪日外国人（宿泊））（直近値（R5））：38,933円/人回

## 【施策の柱1】 「本物の価値」の追求による稼ぐ力の向上

＜重点プロジェクトⅠ＞  
イン・アウトバウンドも含めた交流人口・関係人口の  
拡大と高付加価値化

- ① 山形の強みを活かした高付加価値旅行者層に通じる滞在型観光コンテンツ・ツーリズムの造成※
- ② 魅力ある観光土産品の開発促進と販売チャネルの充実
- ③ 潜在的可能性を持つ地域資源の観光コンテンツ化に対する理解促進
- ④ 異業種・学術機関等と連携した観光コンテンツの開発
- ⑤ 地域間連携・官民連携での広域周遊ルートの造成

- ① ターゲットの属性や嗜好に基づいた国内外への情報発信の強化
- ② 海外高付加価値旅行者層に精通する旅行会社等とのコネクションの形成・情報発信ツールの活用
- ③ 主要空港を基点としたプロモーション・都市圏向けプロモーションの強化
- ④ J Rグループ等と連携した観光キャンペーンや各種大規模イベントに合わせたプロモーションの展開
- ⑤ 羽田乗継による県内空港の利用促進、国際チャーター便、外航クルーズ船の誘致
- ⑥ 農林水産・商工等の異分野や関係機関・地域と連携した海外向けプロモーション・魅力発信の強化
- ⑦ アウトバウンドや教育旅行を通じた相互交流の拡大

- ① 高付加価値旅行者等の多様なニーズを満たす宿泊施設の改修・誘致
- ② 新たな旅行スタイルに対応した受入環境の整備
- ③ 道路交通網をはじめとする社会資本整備の促進
- ④ 高付加価値旅行者や交通弱者を視野に入れた二次交通の充実
- ⑤ 東北のハブ空港である仙台空港からのアクセス向上
- ⑥ 本県インバウンドの新たな玄関口となる新潟空港との連携強化

- ① 高付加価値旅行者に対応したノウハウの習得
- ② 観光事業者の高付加価値化に向けた取組みの支援
- ③ プロフェッショナルガイドの発掘・育成

### ※【山形県が世界に誇る地域資源を活用したツーリズム（主なもの）】

- ✓ 精神文化ツーリズム：出羽三山や山寺、本山慈恩寺、即身仏、草木塔、やまがた出羽百観音に代表される歴史や精神文化
- ✓ アドベンチャーツーリズム：四季折々に表情を変える豊かな自然を活用したアクティビティ
- ✓ ガストロノミーツーリズム：自然の恵みを受けて大切に育まれてきた高品質な美食・美酒
- ✓ フルーツ・ツーリズム：さくらんぼに代表される県産フルーツ
- ✓ スノーツーリズム：雪国としての暮らしが育んだ文化、観光資源としての魅力を持った「雪」
- ✓ 山岳ツーリズム：日本百名山の鳥海山や蔵王山に代表される山岳
- ✓ 温泉ツーリズム：全市町村から湧き出る豊かな温泉
- ✓ 星空ツーリズム：全国有数のきれいな空気が映し出す満天の夜景
- ✓ スポーツツーリズム：県内におけるプロスポーツや、スキーやサイクリングなどアクティビティとしてのスポーツ
- ✓ カルチャーツーリズム：山形県総合文化芸術館や山形交響楽団、山形美術館等が生み出す芸術文化
- ✓ 産業ツーリズム：伝統に裏打ちされた技術力と堅実な県民性が育んだ高品質なモノづくり

## 【施策の柱2】 「人材×DX」による 観光産業の活性化

＜重点プロジェクトⅡ＞  
DXの推進や観光産業を  
支える人材の育成

- ① データ分析に基づいた観光コンテンツの造成
- ② DMOを中心とした地域資源活用コンテンツの造成

- ① データ分析に基づいた個別最適な情報発信・プロモーション
- ② AIコンシェルジュ等デジタル技術の活用によるリアルタイムでの観光案内の充実
- ③ 認知から予約・来訪までデジタルでシームレスに繋がる仕組みの構築
- ④ XR等の先端技術を活用した情報発信
- ⑤ 「地域に暮らす人」が見える情報発信の充実

- ① 観光MaaSの導入促進・ライドシェアの導入等による移動手段の確保
- ② 観光関連施設等におけるWi-Fi環境やキャッシュレス環境の整備促進

- ① 将来の本県観光を牽引する観光人材の確保・育成
- ② DX推進による広域連携と観光デジタル人材の育成
- ③ 「勘」や「経験」から脱却した、観光産業におけるデータドリブン経営の展開
- ④ 統計情報やデジタルデータのシェアリングとオープン化
- ⑤ デジタルを活用し人手不足に対応した業務効率化・生産性向上
- ⑥ 即戦力となる外国人材の活用と受入環境の整備

## 【施策の柱3】 地域一体となった すべての人にやさしい観光地づくり

＜重点プロジェクトⅢ＞  
すべての人々を受け入れる  
アクセシブルツーリズムの推進

- ① 環境保全や地域文化継承など持続可能性を考慮した観光コンテンツの開発
- ② 障がい者や高齢者も楽しめる観光コンテンツの開発
- ③ 地産地消の推進
- ④ 観光需要の平準化の促進

- ① デジタルデバイスやアプリケーションを活用したバリアフリー・多言語対応
- ② レスポンシブルツーリズム（責任ある観光）の普及・啓発
- ③ MICEの誘致推進

- ① アクセシブルツーリズムの推進（年齢、性別、障がいの有無、国籍等に関わらず旅行を楽しめる環境づくり）
- ② 観光地における良好な景観の形成促進
- ③ 自然災害や感染症等に対応した、安全・安心な旅行環境の整備
- ④ 多言語案内表記の整備充実
- ⑤ オーバーツーリズムへの対応

- ① 観光事業者やDMO、地域観光協会における持続可能な経営体制の確立
- ② 観光産業における働き方改革の推進（「働く場」としての観光産業の魅力向上）
- ③ 後世に伝えるべき地域資源の保全・活用
- ④ 歴史・文化、自然など郷土の魅力を学び発信する機会の充実
- ⑤ 戦略的・持続的な観光地経営に向けた関係組織の整理・統合
- ⑥ 共生・共創の精神によるホスピタリティの向上

A 観光資源  
コンテンツ

B 情報発信  
・PR

C 環境  
・インフラ

D 受入態勢